

アセンブリ教育実施要領



医療を単一の専門職だけで行うことは不可能です。それゆえ、複数の専門職が互いに協力し合い、「連携する」必要があります。アセンブリを通して、「患者さんの健康問題を解決する」ために、チームで活動できる医療人を目指します。

アセンブリ教育センター長
大槻 眞嗣

1. 目的

アセンブリ教育は、学部及び学校間の壁を乗り越え、学生と教員が共通の目的に向かって一緒に活動することを通して、責任感と奉仕の精神にあふれた医療人としての人間形成を目指す。これにより医療の専門職として社会に貢献するのに必要な専門職連携の基盤づくりを行う。

2. 卒業時の到達目標

- (1) 多様な人とともに、目標に向け積極的にコミュニケーションがとれる。
- (2) 主体的に考え、目標に向かって一歩踏み出すことができる。
- (3) 目標の達成に向け、問題点を発見し、問題解決を行うなど考え抜く力を発揮できる。
- (4) 医療現場において、チームの一員として協働できる。

3. アセンブリの位置づけ

アセンブリは建学の理念に基づき実施される特別教育活動で、単位数には含めないが、卒業に必要な教科とする。卒業に必要な修了時間は別途定める。

※医療科学部の一部の学科あるいは学年では、経過措置として単位認定の教科とする。

また医療科学部の一部の学科ではカリキュラムの都合上、アセンブリⅢ及びⅣ（後述）に参加できない学生が生じる。

4. 実施要領

アセンブリの活動は、アセンブリⅠ、アセンブリⅡ、アセンブリⅢ、アセンブリⅣからなり、各担当の副センター長を置く。

5. 担当教員

専任教員はアセンブリⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの何れかに所属し、アセンブリ活動を支援する。但し、診療などに支障が出る場合はこの限りではない。

I) アセンブリ I

1年次に行うチームとしてのアセンブリ活動で、全学活動と班活動から成る。

<アセンブリ I 終了時の到達目標>

- ・将来いろいろな医療職に就く学生と、多様な経験を有する教員と一緒に活動できる。
- ・チームでの活動に主体的に参加できる。

<全学活動>

- 1) アセンブリ講演会（「医療と献体」、「薬物乱用防止」など、講演内容は変更される場合がある）
- 2) 特別講演会
- 3) 講習会（救命救急講習、手洗い講習、災害医療講習、搬送法）
- 4) その他（活動報告会1、2）

<班活動>

運動、文化、研究の三分野の班構成とし、実施活動班種目については年度始めにアセンブリ教育センターが指定する。登録できる班は別途定める。

<実施時間>

活動時間は毎週月曜日4限（医学部においては5・6時限）とするが、その他、集中講義形式を取り入れることも可である。

1) 参加方法

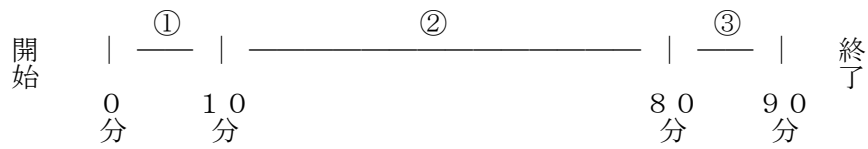
- ・学生は、いずれかの班活動種目に参加しなければならない。
- ・学生は、年度始めの指定された日までに、アセンブリ教育センターに予備登録する。
- ・各班種目への所属は、原則として学生の予備登録によるが、その決定はアセンブリ教育センターで行う。
- ・所属した班は、原則としてその年度内は変更できない。

2) 班別担当教員

- ・各班には班主任、班副主任を置き、アセンブリ教育センターが委嘱する。
- ・班別担当教職員は、年度始めに基本方針、年間計画の立案、用具施設の点検整備、不測時の処置などについて指導、指示を与える。班副主任は、班主任を補佐する。
- ・活動上、必要不可欠な場合に限り、指導者として専門的技能と適切な人格を有する学外の人員を客員教員（アセンブリ・インストラクター）として採用することができる。採用人数に関しては、班の活動内容、実績などを精査し、アセンブリ教育センターが立案・推薦し、理事会で決定する。

3) 活動方法

- ・基本的な時間の使い方は、原則として、次のように行う。



(図説明)

- ①開始10分間は、班担当教職員による出欠点呼と活動の連絡に使用する。
- ②70分の時間帯は、各班種目の活動時間に使用する。
- ③最後の10分間は、活動終了に伴う整理・整頓及び活動記録の記入を完了し、班別担当教職員の出欠点呼を受ける。

・班の活動計画

班の活動計画を作成するため必要事項を記載し、活動年度開始前にアセンブリ教育センターへ提出する。提出期限は別途指示する。

・班の活動報告

所定の記録簿に次の事項を記入する。

1. 班員名及び班委員
2. その他の係の氏名
3. 基本方針
4. 年間計画
5. 毎回の実施内容とその反省

活動終了後、各班の教職員は学生の出欠席をアセンブリ教育センターに提出する。

・活動施設

活動施設は基本的に学内施設とするが、運動系諸班に関しては、活動成果を上げるため、必要に応じて学外施設の借用を認める。

・活動物品

活動に使用する物品については、アセンブリ教育センターで検討するが、原則として基本的施設設備を除いて個人負担とする。

4) 班活動成果の発表

各班の創意を生かした方法により、学内等において発表する機会を設けることが望ましい。

<評価法>

評価は出席状況など含め総合的に評価する。

[注意事項]

- ・アセンブリⅠは1年次で履修する教科であり、他学年では履修できない。
- ・4回行われる全学活動の講習会はすべて出席すること。なお講習会を欠席した場合は補講を行わなくてはならない。

Ⅱ) アセンブリⅡ

2年次に行うアセンブリ活動で、プロジェクト制により学生が自らの活動計画に基づいて主体的に行うチームとしての活動。

<アセンブリⅡ終了時の到達目標>

- ・チームとして明確な目標を定めることができる。
- ・主体的に考え、目標に向かって一歩踏み出すことができる。
- ・将来直面する課題の問題点を発見し、問題解決を行うなど考え抜く力を発揮できる。
- ・チーム活動を円滑に行うことができる。

<活動方法>

1) チーム

- ・5～10名の複数の学部・学科の学生が所属する混成チームを作る。
- ・各チームには担当教員を置き、所属学生はリーダー、サブリーダー、書記、会計など何らかの役割を担う。
- ・チーム編成は学生の主体性を尊重するが、アセンブリ教育センターが決定する。

2) 活動など

- ・活動時間はチームで主体的に定めることができる。(平日の授業後、土曜日・日曜日、夏休みなどを含む)
- ・活動は基本的にチーム単位で行い、目標、スケジュールなど学生が主体性を持って決定する。
- ・活動目標として地域との連携、ボランティア、医療人としての基盤形成、リサーチマインドの涵養などを盛り込む。
- ・1年間の活動時間(オリエンテーション、チーム編成、チーム活動目標設定、活動計画作成、チーム活動、報告書作成、活動報告会など)は30時間以上とする。
- ・活動費用は、予算案を提出後、アセンブリ教育センターの承認を得て配布する。
- ・活動費を使用した場合は指定のルールに添った会計報告を行う。
- ・プロジェクト計画書、予算申請書、現金出納帳、領収書(出金伝票)貼付用紙、活動報告書、学外活動届、事由書、振り返りシート、相互評価シート、評価票などはフォーマットを定める。
- ・活動終了後は必要に応じて活動報告会を行う。

<評価法>

評価は個人及びチームの評価を担当教員とアセンブリ教育センターで総合的に評価する。

1) 個人評価

総活動時間、振り返りシート、相互評価シート

2) チーム評価

プロジェクト計画書(活動計画)、予算申請書(予算計画)、現金出納帳(会計報告)、活動報告書(活動状況報告)、学外で活動を行う場合は学外活動届など

[注意事項]

- ・アセンブリⅡは2年次で履修する教科であり、他学年では履修できない。

Ⅲ) アセンブリⅢ

3年次（一部の学科は4年次）に行うアセンブリ活動で、チーム基盤型学習（Team-Based Learning）を採り入れたチームとしての活動。

<アセンブリⅢ終了時の到達目標>

- ・多様な人とともに、目標に向け積極的にコミュニケーションがとれる。
- ・チームでの活動に自らの役割を認識できる。
- ・目的を遂行するため問題点を発見し、問題を解決するための行動を取ることができる。
- ・医療に於ける専門職を意識し、チームの一員として協働できる。

<活動方法>

- ・欠席するとチームとしての活動ができないため、特別な事情がある場合を除いて遅刻や早退なく、すべての授業に出席することを修了の条件とする。
- ・活動時間は年度初めに、日程等が提示される。また、詳しい内容については、学科別に行う事前説明会で詳しく説明する。
- ・授業形態としては、チーム基盤型学習（Team-Based Learning）を採用する。
- ・5～6名の学部・学科の異なる学生で混成チームを作る。
- ・各自の学部・学科で学んだ専門性を生かし、学部・学科の垣根を越えて、チームで「地域住民の問題、課題」の解決にむけて取り組み、具体的なプランを提案する。
- ・事前説明会で配布した資料を十分に予習して、授業に臨む。1日目の授業の最初、事前学習資料の理解度を確認する小テストである i R A T（個人としての準備確認テスト）を行う。その後、同じ問題をチームで話し合っ解決する t R A T（チームとしての準備確認テスト）を行う。t R A Tにより、個人が事前学習を行うことによるチームへの貢献度が明らかになる。その後、チームで応用課題に取り組む。
- ・2日目の授業では、応用課題の成果をチーム毎に発表する。学生が優秀なチームを選出する。同僚学生による学生個人の評価（ピア評価）を行う。
- ・3日目の授業は、フジタホール2000にて全体発表会を開催する。2日目に選出されたチームが発表し、後日、評価の高かったチームを表彰する。

<評価法>

評価は以下の項目により個人を対象に行う。

- 1) 事前学習資料の理解度を確認する確認テスト i R A T t R A T
- 2) 応用課題（チームで取り組む）の成果
- 3) チームメンバー間の互いの評価 [ピア評価]

Ⅳ) アセンブリⅣ

現在、トライアルの準備を進めている。後日、詳細について掲示する。